

男女平等に関する意識調査報告書

(男女平等参画推進計画付属資料)

平成30年3月

倶知安町

倶知安町民の男女平等に関する意識調査結果

1 調査目的

倶知安町において、すべての町民が性別意識にとらわれず、その個性と能力を十分に発揮して、男女が平等に参画するまちをつくるため、平成17年4月に「男女が平等に参画する倶知安のまちをつくる条例」が制定され、これを実現するための推進プランをつくることが義務付けられました。また、平成19年度には「男女が平等に参画する倶知安のまちをつくる推進プラン」が策定されました。

現行の「男女が平等に参画する倶知安のまちをつくる推進プラン」の終了に伴い、新たな推進プランを策定する基礎資料とするため、アンケートを行いました。

2 調査方法

- ・対象 町内に在住の18歳以上の男女
- ・調査時期 平成29年5月29日～6月16日
- ・対象団体 町内12団体
 - ①倶知安人権擁護委員協議会 4枚配布
 - ②JA ようてい 57枚配布
 - ③消費者協会 130枚配布
 - ④倶知安厚生病院 311枚配布
 - ⑤後志総合振興局 331枚配布
 - ⑥倶知安町役場 168枚配布
 - ⑦自衛隊 80枚配布
 - ⑧建設業協会 26枚配布
 - ⑨東急リゾートサービス 160枚配布
 - ⑩生協 倶知安店 102枚配布
 - ⑪ラッキー 倶知安店 130枚配布
 - ⑫男女平等参画推進審議会 10枚配布
- ・配布枚数 1,509枚
- ・調査方法 各町内団体、事業所を対象に調査用紙を配付、後日事務局が回収

3 調査項目

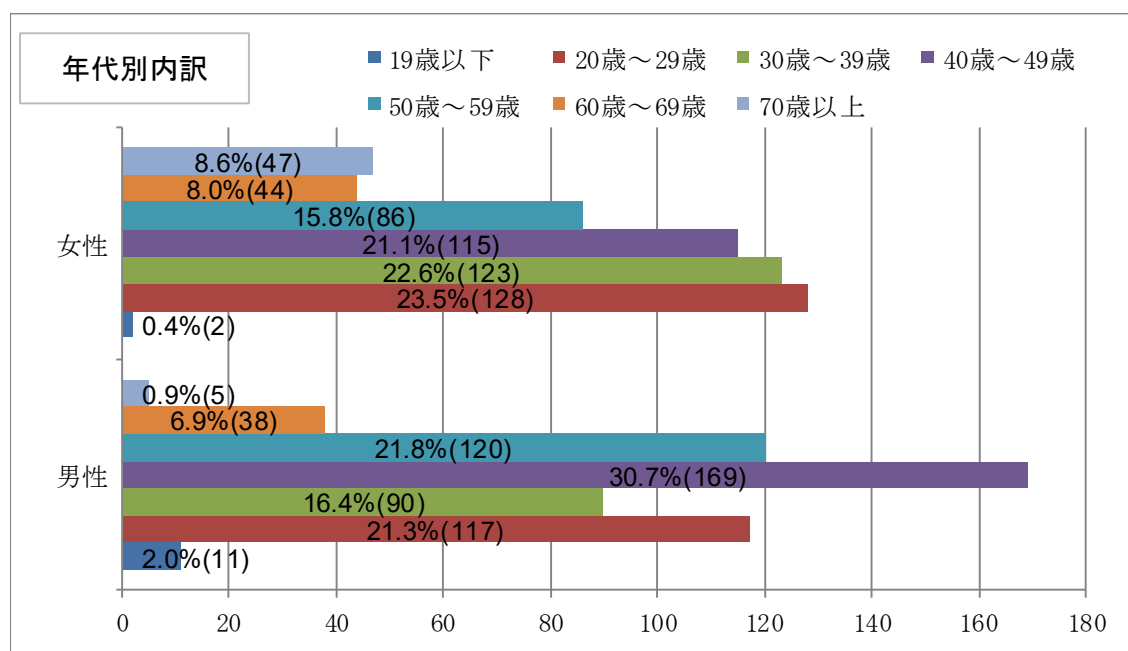
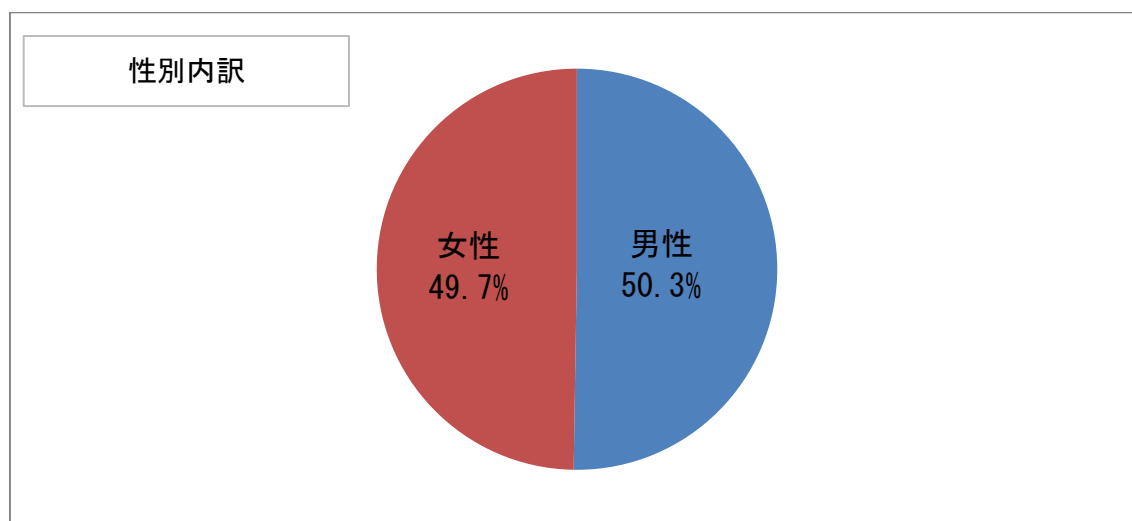
- ・男女の地位に関する意識について
- ・男女の家庭生活に関する意識について
- ・男女平等参画社会に関する意識について
- ・女性の職業生活における活躍の推進について

4 調査項目数
30 問

5 回収結果
配布枚数 1,509 枚 有効回収数 1,095 枚 回収率 72.5%

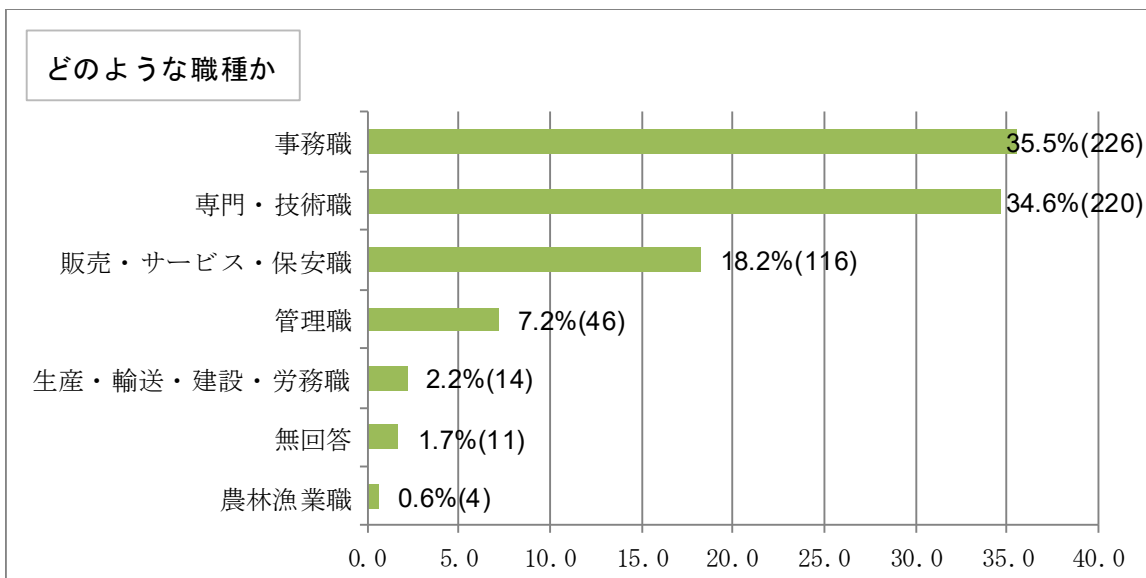
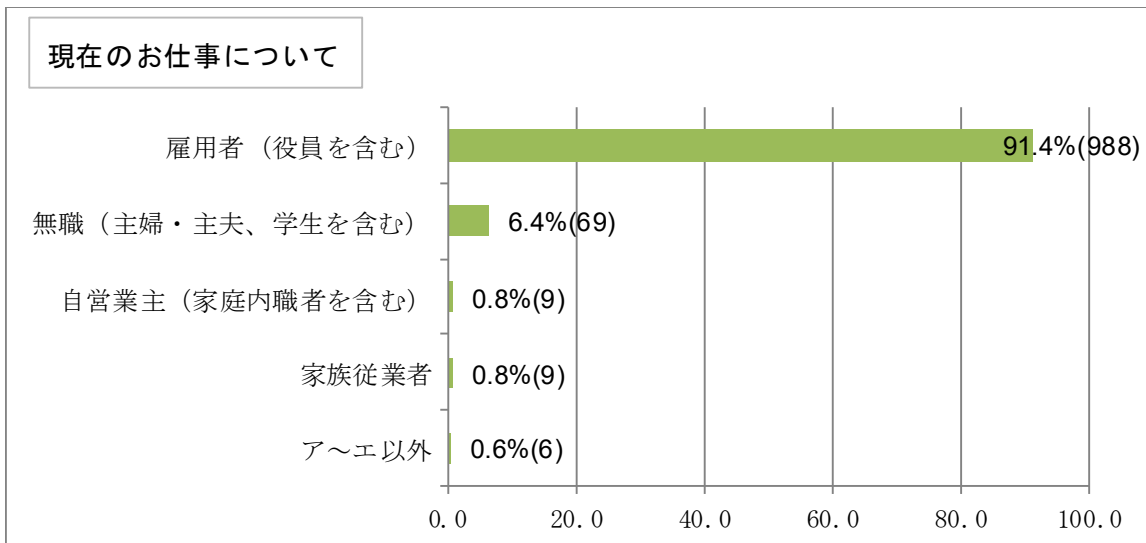
6 男女・年代別回収結果

○ 性別内訳・年代別内訳

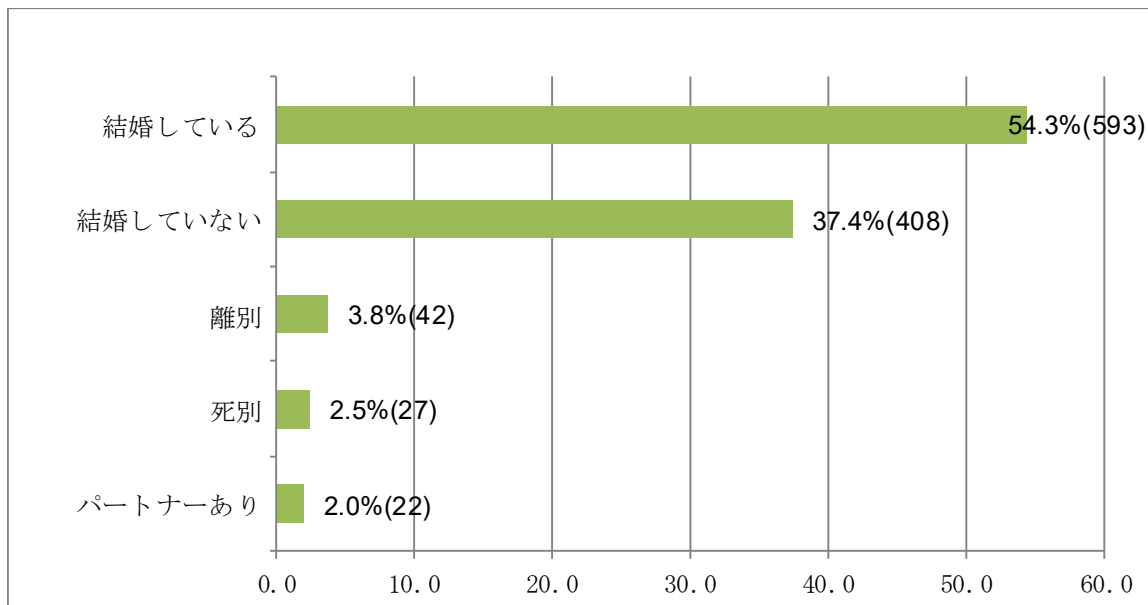


※比率の後ろカッコ内数値は回答者実数（以下すべて同様。）

○ お仕事について



○ 結婚について



アンケート結果の考察

1 男女の地位に関する意識について

各分野における男女の地位の平等感について、「平等」と答えた人の割合は、「家庭生活」40%、「職場」40.3%、「学校教育」67.9%、「法律や制度」41.2%、「社会通念等」23%となっている。各分野において、「男性のほうが優遇されている」（「男性のほうが非常に優遇」「どちらかといえば男性が優遇」と答えた人の割合が、「女性のほうが優遇されている」（「女性のほうが非常に優遇」「どちらかといえば女性が優遇」と答えた人の割合を大きく上回っている。

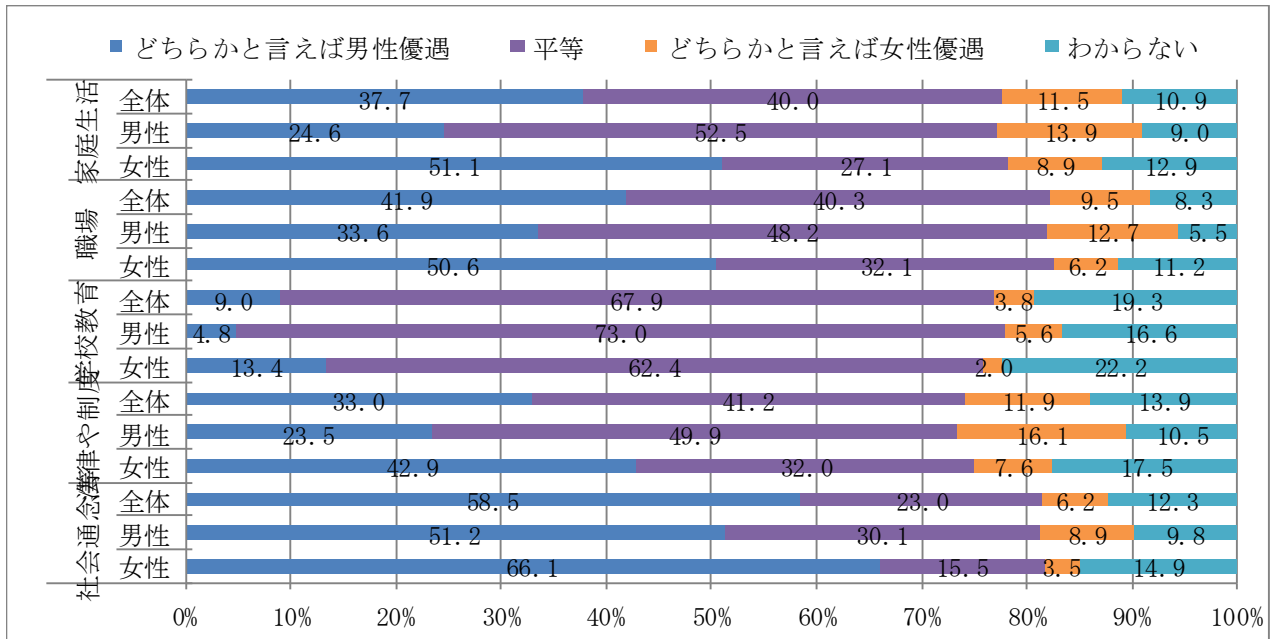
「学校教育」の分野においては、男女ともに「平等」と答えた人の割合が他4分野より高いが、男性からの回答のみに絞ると、「男性のほうが優遇されている」より「女性のほうが優遇されている」と答えた人の割合が高い。

「社会通念等」の分野においては、男女ともに「平等」と答えた人の割合が最も低く、「男性のほうが優遇されている」と答えた人の割合が全分野中最も高かった。

前回のアンケートと比較すると、男女の地位に関する意識については大きな変動がないが、「学校教育」の分野を除き、いずれの分野も「平等」と答えた人の割合が減少していることがわかる。

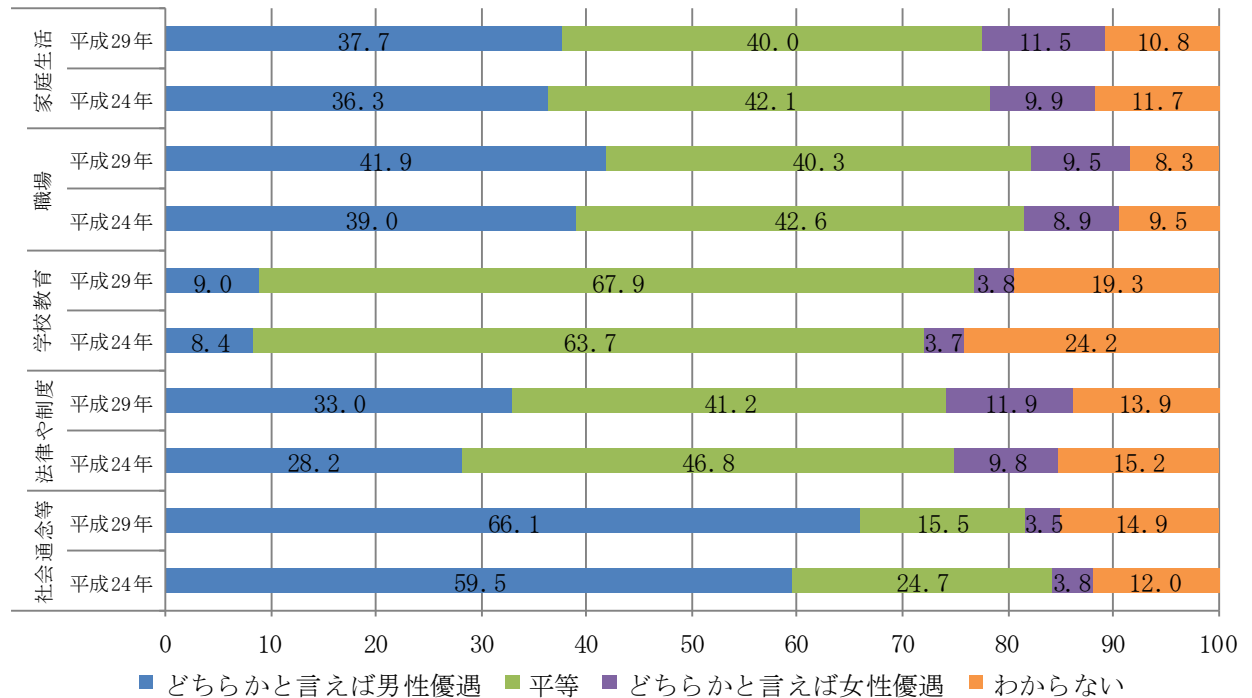
「学校教育」の分野を除いた各分野において「男性のほうが優遇されている」と感じている人の割合が高く、男性より女性のほうが、よりその傾向が強いことが分かった。

男女の地位に関する意識について



平成 24 年度調査と比較すると・・・

男女の地位に関する意識について（平成24年度調査との全体比較）

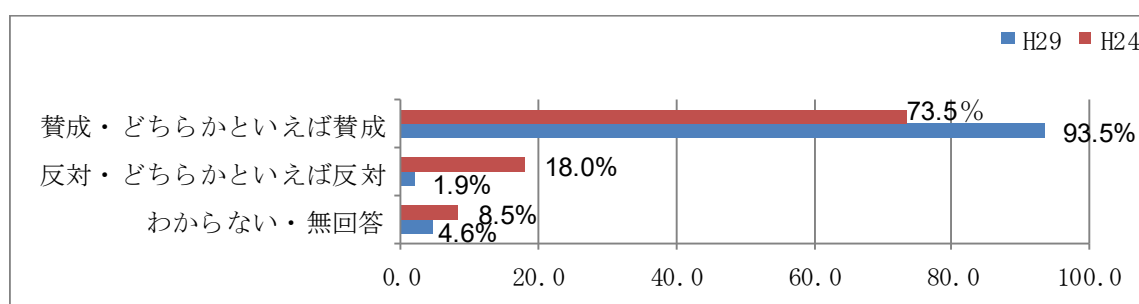


2 男女の家庭生活に関する意識について

問 「結婚は個人の自由である」という考え方について

「結婚は個人の自由である」という考え方について、「賛成・どちらかといえば賛成」(93.5%)と回答した人の割合が、「反対・どちらかといえば反対」(1.9%)と答えた人の割合を大きく上回った。

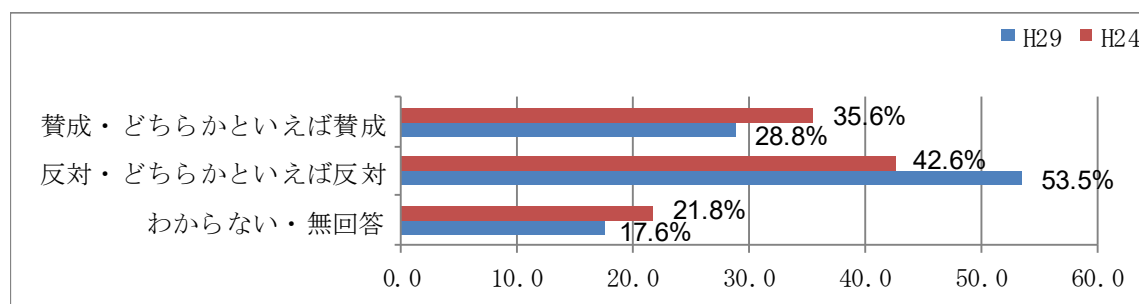
平成24年度の調査と比較すると、「賛成・どちらかといえば賛成」の割合が20%上昇、「反対・どちらかといえば反対」の割合が16.1%低くなっており、現代社会における価値観の多様化を反映する結果となった。



問 「女性は、結婚したら家族のことを優先して生活すべき」という考え方について

「女性は、結婚したら家族のことを優先して生活すべき」という考え方について、「反対・どちらかといえば反対」(53.5%)と回答した人の割合が、「賛成・どちらかといえば賛成」(28.8%)と答えた人の割合を大きく上回った。

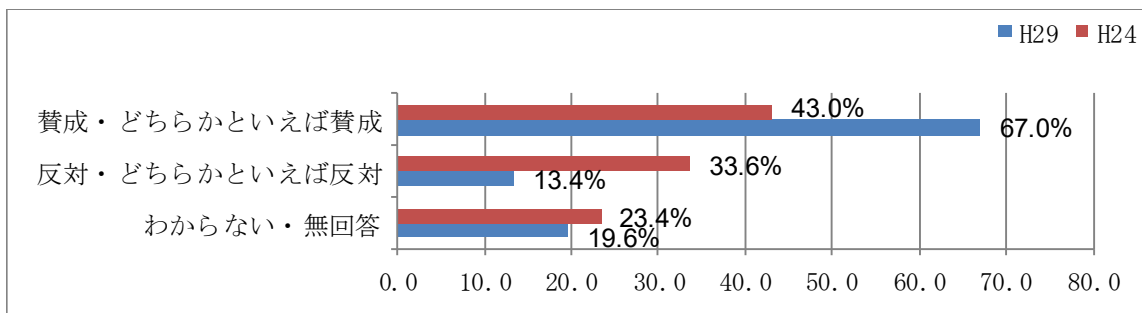
平成24年度の調査と比較すると、「賛成・どちらかといえば賛成」の割合が6.8%低く、「反対・どちらかといえば反対」の割合が10.9%上昇しており、結婚する前と後で女性がライフスタイルを変えないことに対して肯定的な結果となった。



問 「子どものいない夫婦生活も選択肢のひとつ」という考え方について

「子どものいない夫婦生活も選択肢のひとつ」という考え方について、「賛成・どちらかといえば賛成」(67%)と回答した人の割合が、「反対・どちらかといえば反対」(13.4%)と答えた人の割合を大きく上回った。

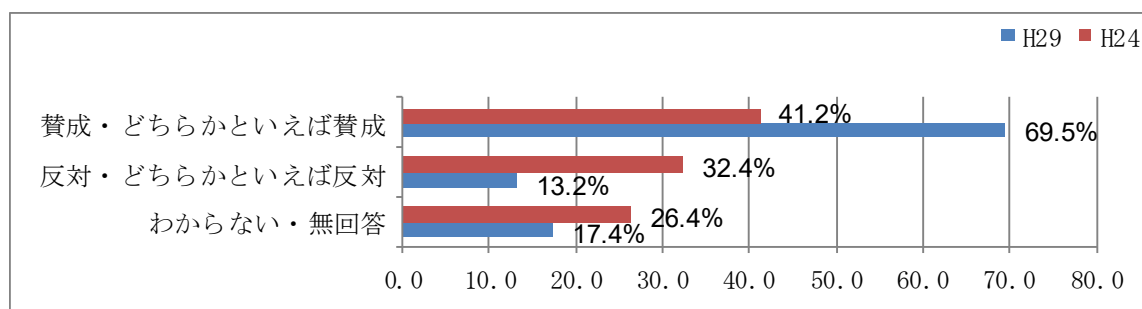
平成24年度の調査と比較すると、「賛成・どちらかといえば賛成」の割合が24%上昇、「反対・どちらかといえば反対」の割合が20.2%低くなっており、夫婦生活における価値観の変化が反映される結果となった。



問 「結婚生活に満足できないときは離婚も選択肢のひとつ」という考え方について

「結婚生活に満足できないときは離婚も選択肢のひとつ」という考え方について、「賛成・どちらかといえば賛成」(69.5%)と回答した人の割合が、「反対・どちらかといえば反対」(13.2%)と答えた人の割合を大きく上回った。

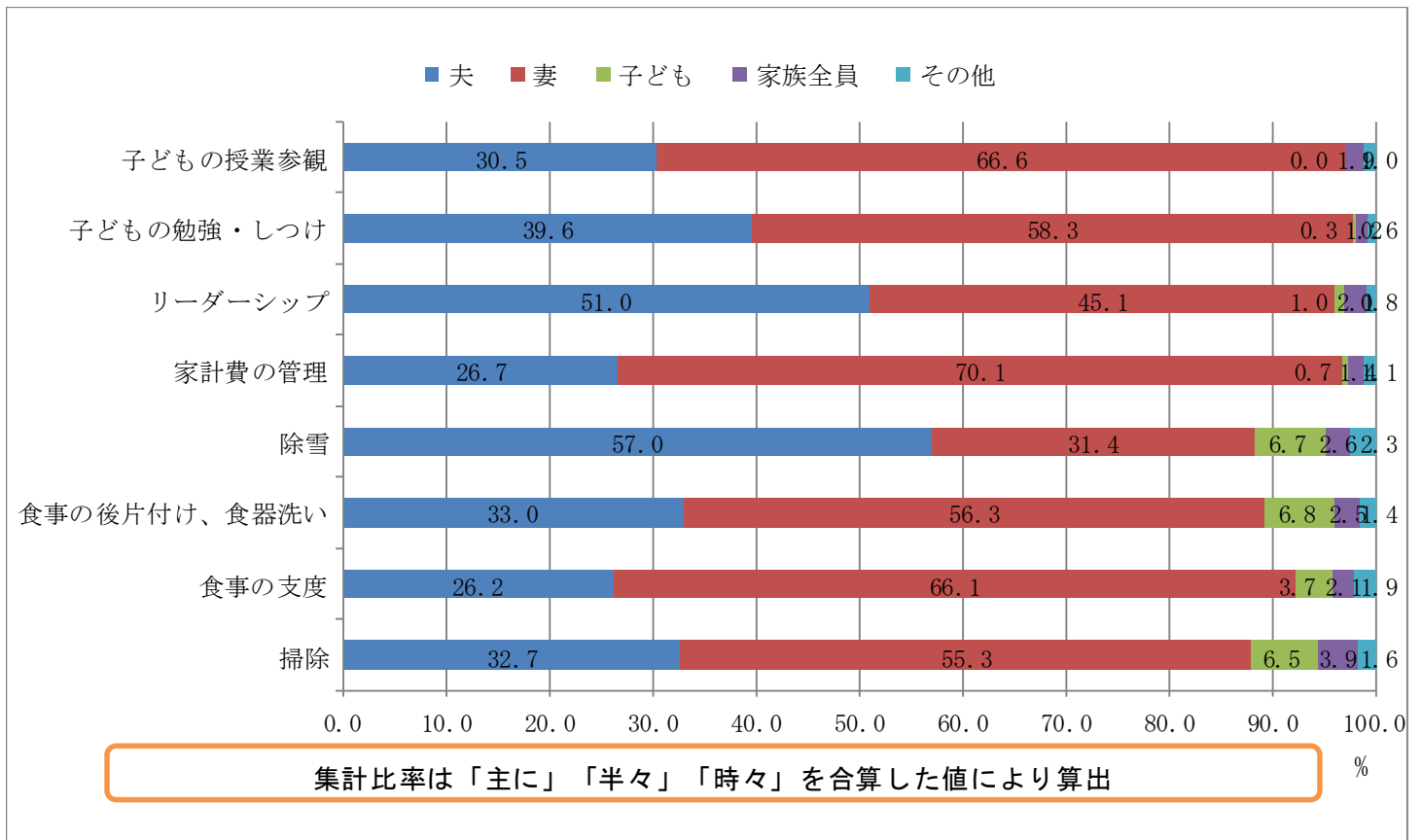
平成24年度の調査と比較すると、「賛成・どちらかといえば賛成」の割合が28.3%上昇、「反対・どちらかといえば反対」の割合が19.2%低くなっており、人生において離婚も選択肢のひとつであるという考えが当町において広まりつつあることが明らかになった。



問 家庭内における家事等の分担について

家事等の分担（8項目）について、「子どもの授業参観」「子どもの勉強・しつけ」「家計費の管理」「食後の後片付け、食器洗い」「食事の支度」「掃除」の6つの項目において、妻が行っていると答えた人の割合が圧倒的に高かった。

一方、「除雪」の項目においては夫、「リーダーシップ」の項目においては、夫の方が妻より割合は高いものの、他項目程の大きな差は見られなかった。

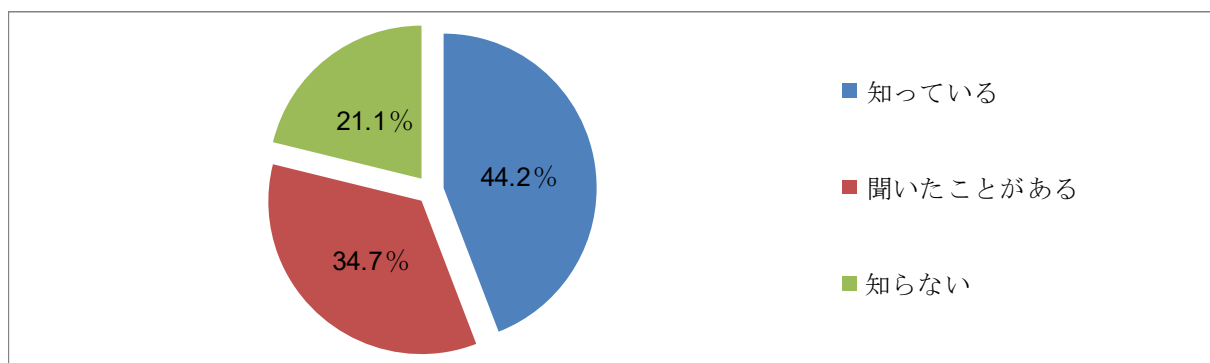


3 男女平等参画社会に関する意識について

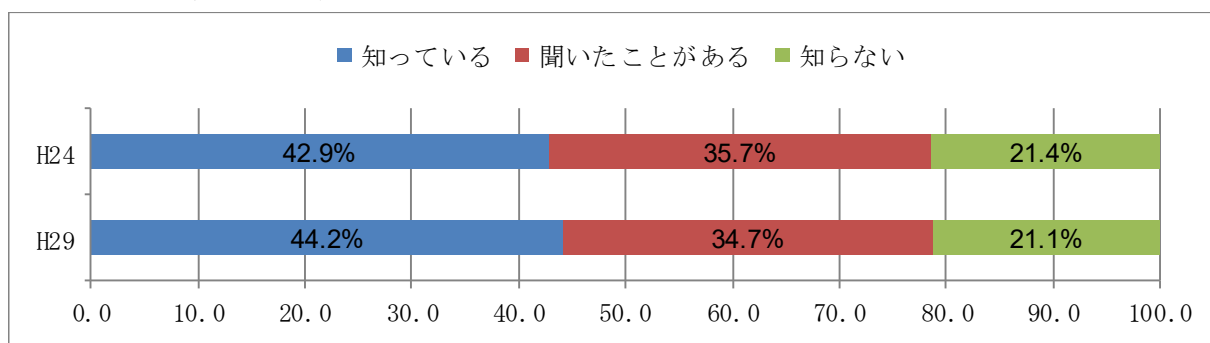
問 「男女平等参画」「男女共同参画」という言葉を知っていますか。

男女平等参画・共同参画について「知っている」「聞いたことがある」と答えた人は全体の78.9%だった。平成24年度の調査結果と比較すると、「知っている」「聞いたことがある」と答えた人の割合に大きな変動はないものの、78.6%から78.9%へ、0.3%の増となっている。

。

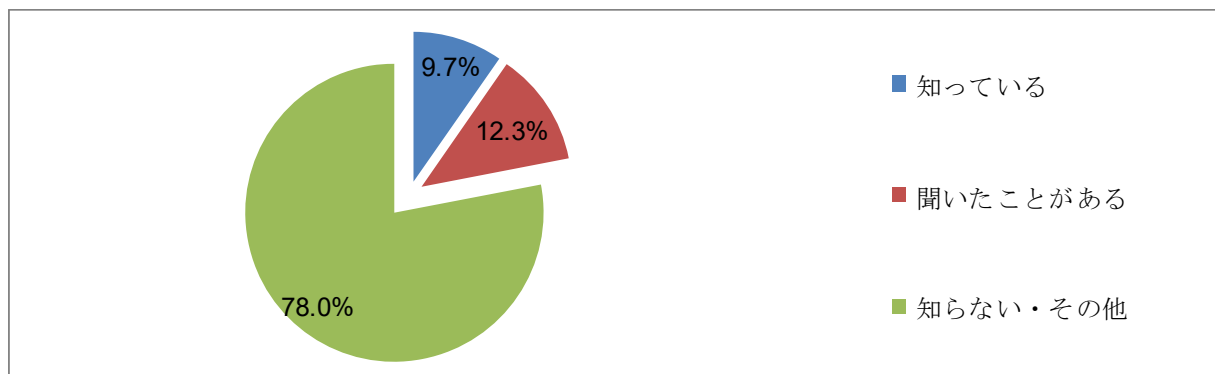


平成24年度調査と比較すると・・・

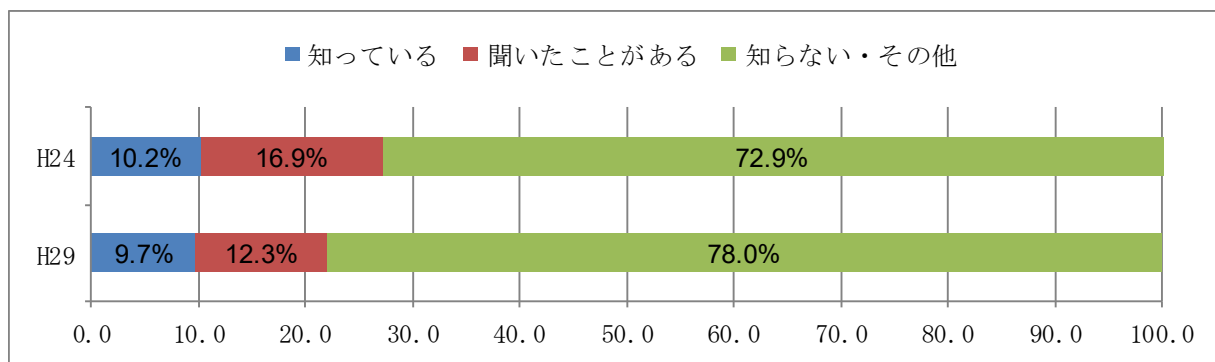


問 「男女が平等に参画する倶知安のまちをつくる条例」を知っていますか。

男女が平等に参画する倶知安のまちをつくる条例について、「知らない・その他」と答えた人の割合が78%と、大幅に高くなる結果となった。平成24年度の調査結果と比較すると、「知っている」「聞いたことがある」と答えた人の割合が低くなっている一方、「知らない」と答えた人の割合はより高くなっている。男女平等参画に関するイベントや周知を行う際は条例についても積極的に広報活動を行う必要がある。



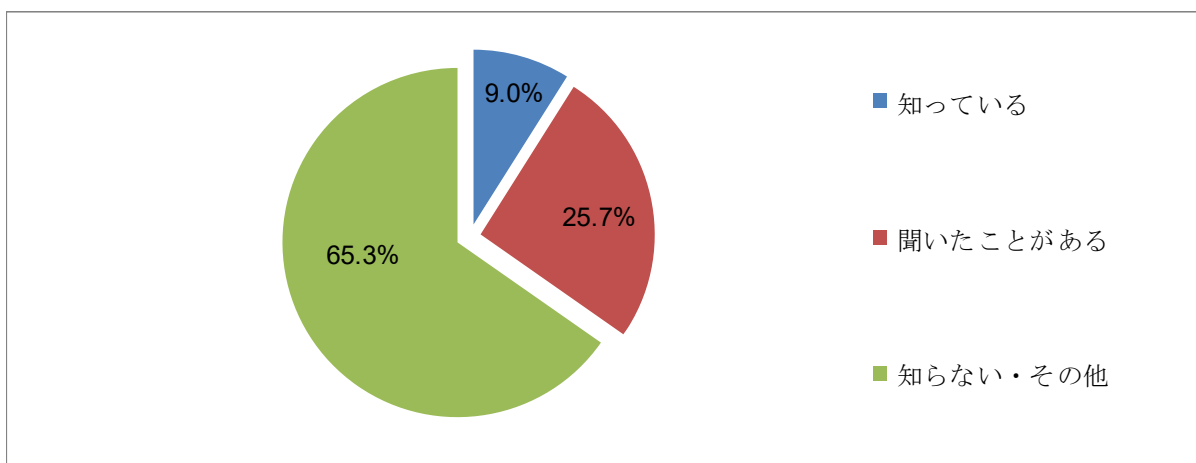
平成24年度調査と比較すると・・・



4 女性の職業生活における活躍の推進について

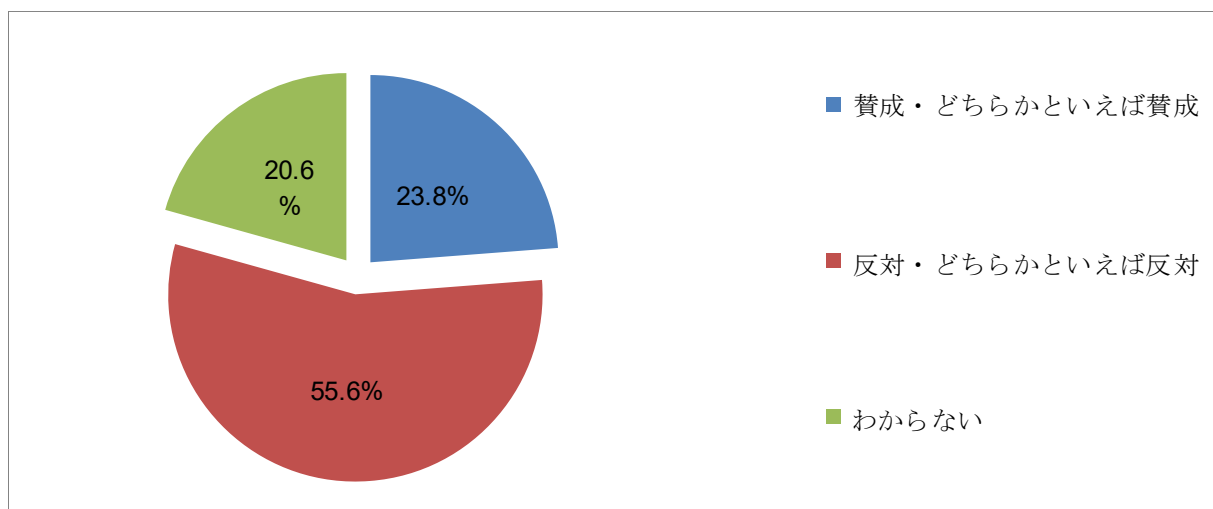
問 「女性活躍推進法」という言葉を知っていますか。

女性活躍推進法について、「知らない・その他」と答えた人の割合が65.3%と、「知っている」(9%)「聞いたことがある」(25.7%)と答えた人の割合を大きく上回っている。女性活躍推進法は平成28年に施行された法律であるため、今後、積極的な広報活動を行っていくなど知名度の上昇を図ることが重要である。



問 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について。

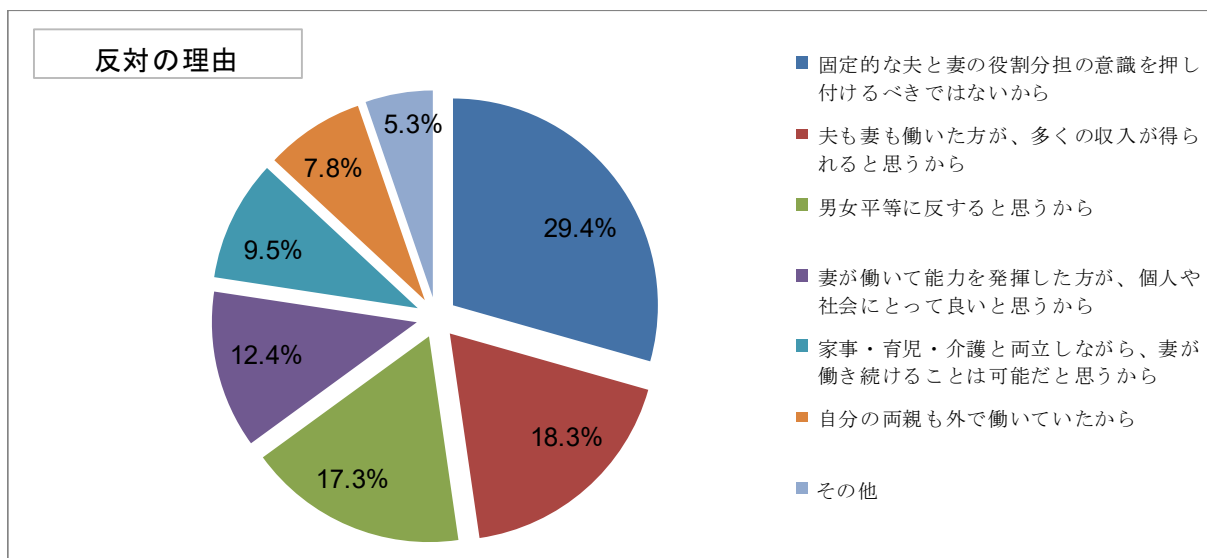
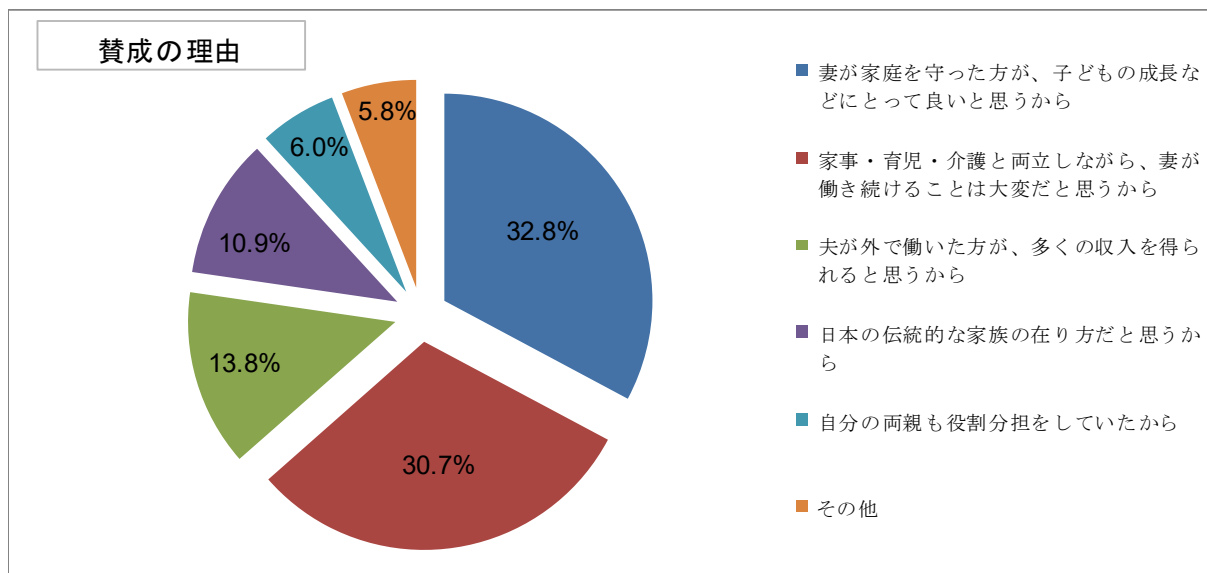
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方について、「反対・どちらかといえば反対」と答えた人の割合(55.6%)が、「賛成・どちらかといえば賛成」と答える人の割合(23.8%)の割合を大きく上回る結果となった。



問 上記設問に対する賛成の理由、反対の理由について。

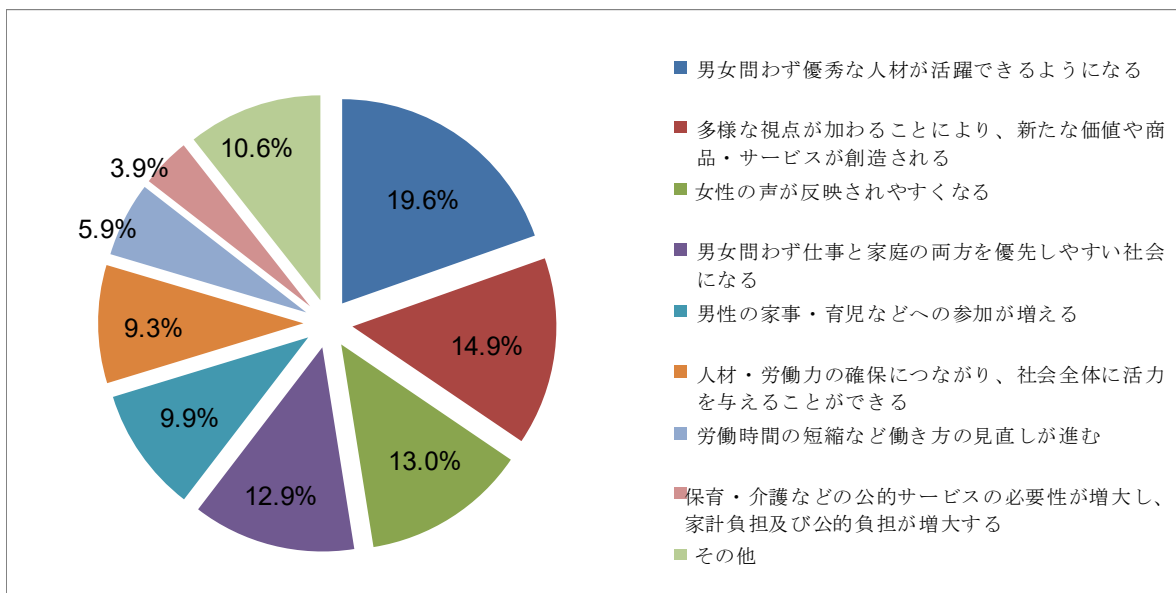
賛成する理由としては、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」と回答した人の割合が 32.8%、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と回答した人の割合が 30.7%と高く、以下、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(13.8%)「日本の伝統的な家庭の在り方だと思うから」(10.9%)「自分の両親も役割分担をしていたから」(6%)などの順となっている。

反対する理由としては、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」と回答した人の割合が 29.4%と最も高く、以下、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(18.3%)「男女平等に反すると思うから」(17.3%)「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(12.4%)「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」(9.5%)「自分の両親も外で働いていたから」(7.8%)などの順となっている。



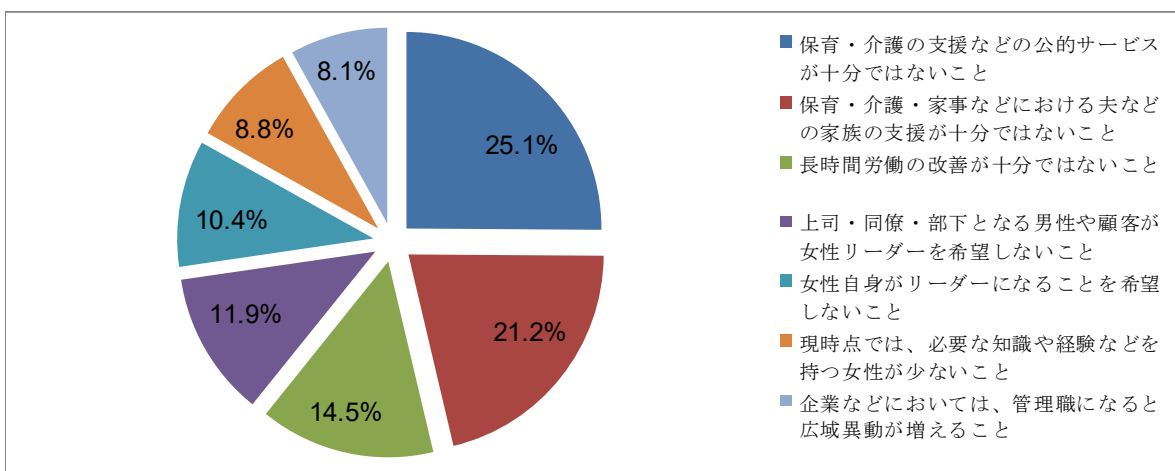
問 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。

女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか、という設問について、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」と答えた人の割合が19.6%と最も高く、以下、「多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(14.9%)「女性の声が反映されやすくなる」(13%)「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」(12.9%)「男性の家事・育児などへの参加が増える」(9.9%)「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」(9.3%)「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」(5.9%)「保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する」(3.9%)などの順となっている。



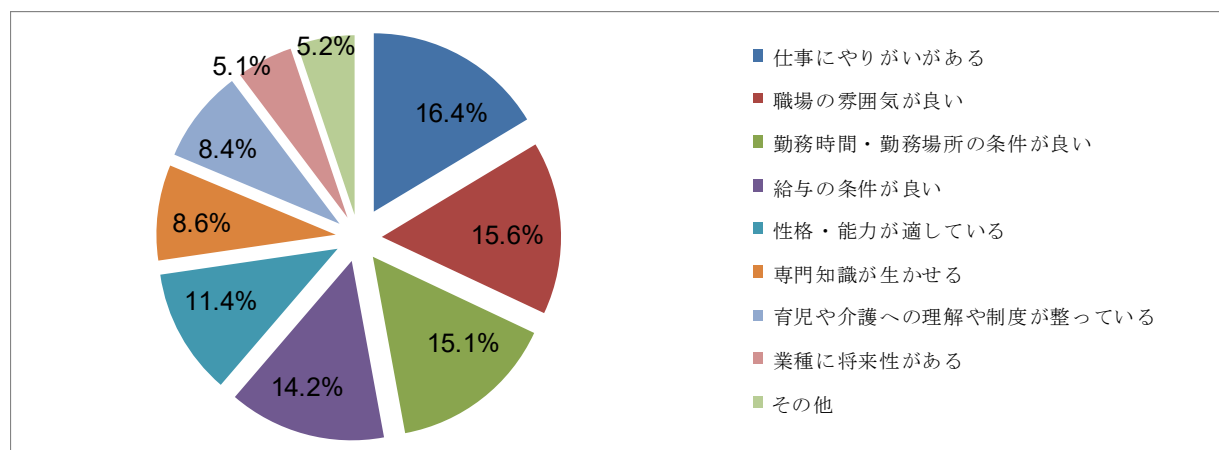
問 女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。

女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思うか調査したところ、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」と回答した者の割合が25.1%と最も高く、以下、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(21.2%)「長時間労働の改善が十分ではないこと」(14.5%)「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(11.9%)「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(10.4%)「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」(8.8%)「企業などにおいては、管理職になると広域移動が増えること」(8.1%)の順となっている。



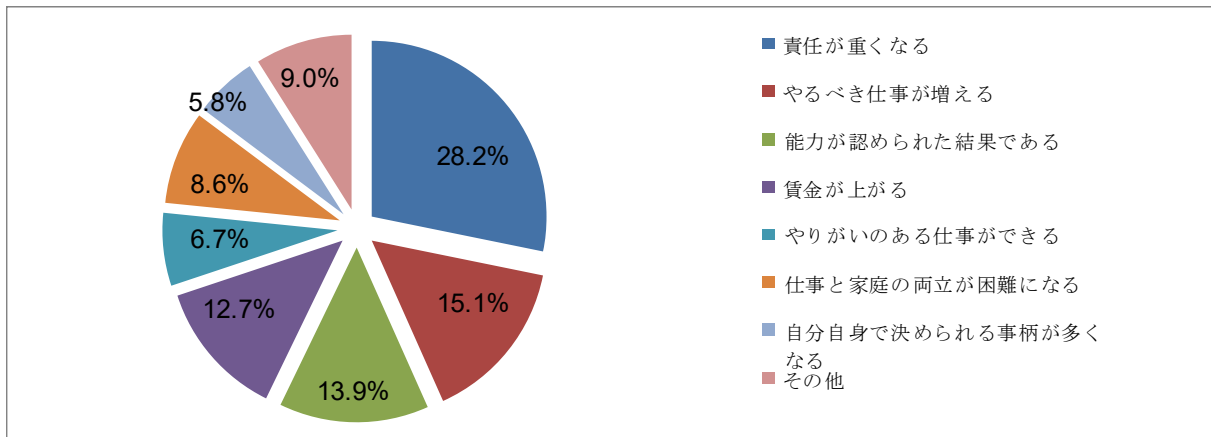
問 仕事を選ぶ際に重視すること、又はしたいことは何ですか。

仕事を選ぶ際に、重視すること、又はしたいことは何か調査したところ、「仕事にやりがいがある」と回答した人の割合が16.4%、「職場の雰囲気が良い」と回答した人の割合が15.6%、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」と回答した人の割合が15.1%と高く、以下、「給与の条件が良い」(14.2%)「性格・能力が適している」(11.4%)「専門知識が活かせる」(8.6%)「育児や介護への理解や制度が整っている」(8.4%)「業種に将来性がある」(5.1%)などの順となっている。



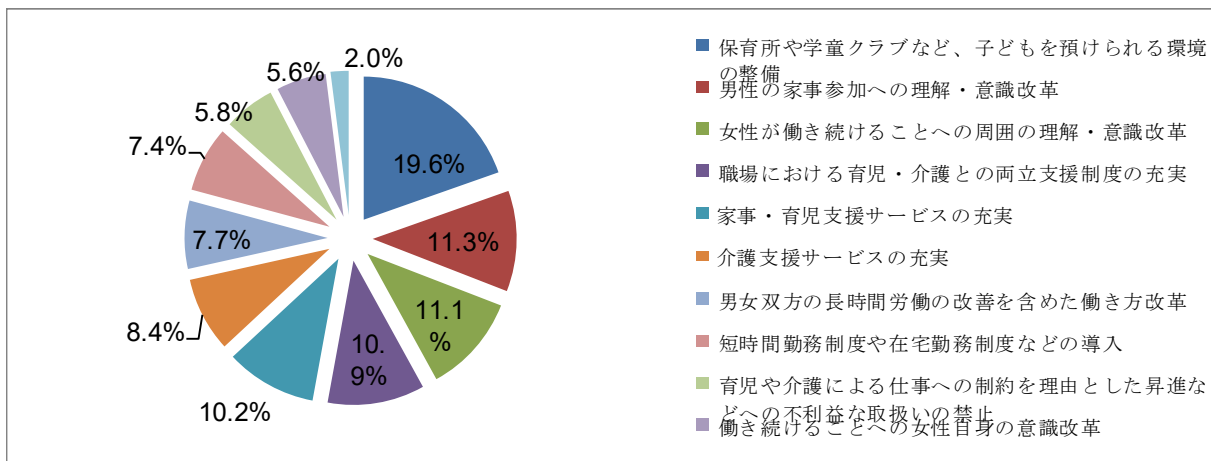
問 管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージを持っていますか。

管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージを持っているか調査したところ、「責任が重くなる」と回答した人の割合が28.2%と最も高く、以下、「やるべき仕事が増える」(15.1%)「能力が認められた結果である」(13.9%)「賃金が上がる」(12.7%)「仕事と家庭の両立が困難になる」(8.6%)「やりがいのある仕事ができる」(6.7%)「自分自身で決められる事柄が多くなる」(5.8%)などの順となっている。



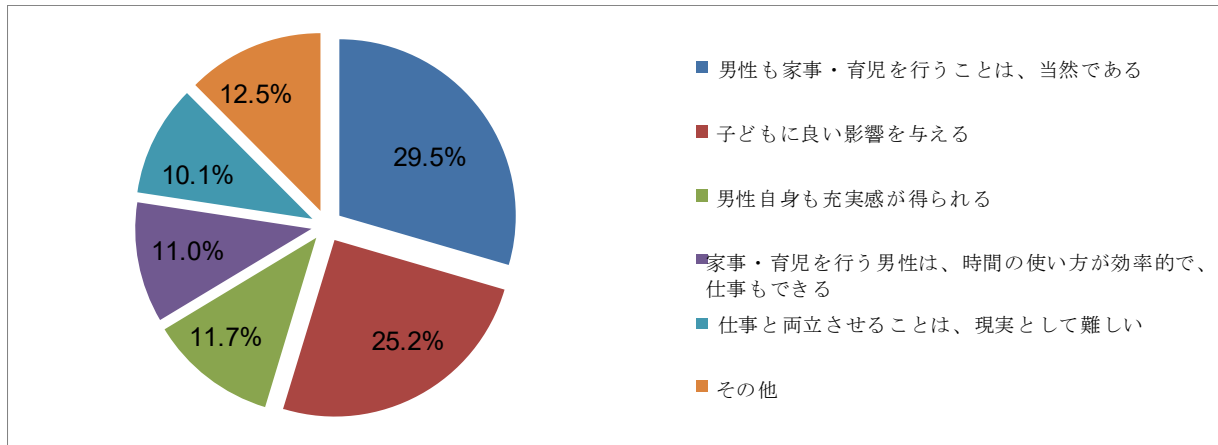
問 女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思うか調査したところ、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」と回答した人の割合が19.6%と最も高く、以下、「男性の家事参加への理解・意識改革」(11.3%)「女性が働き続ける事への周囲の理解・意識改革」(11.1%)「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(10.9%)「家事・育児支援サービスの充実」(10.2%)「介護支援サービスの充実」(8.4%)「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」(7.7%)「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」(7.4%)「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」(5.8%)「働き続けることへの女性自身の意識改革」(5.6%)などの順となっている。



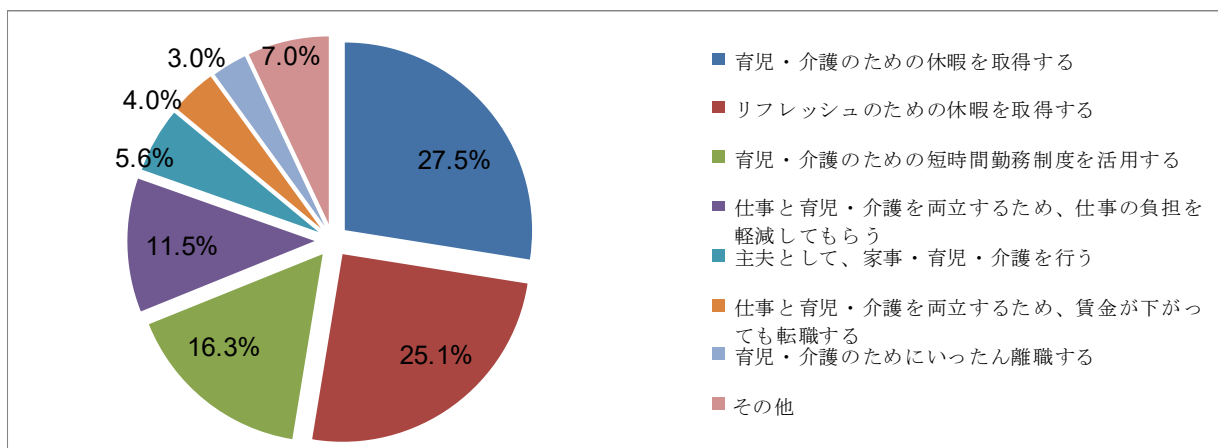
問 男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージを持っているか調査したところ、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」と答えた人の割合が29.5%、「子供に良い影響を与える」と答えた人の割合が25.2%と高く、以下、「男性自身も充実感が得られる」(11.7%)「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」(11%)「仕事と両立させることは、現実として難しい」(10.1%)などの順となっている。



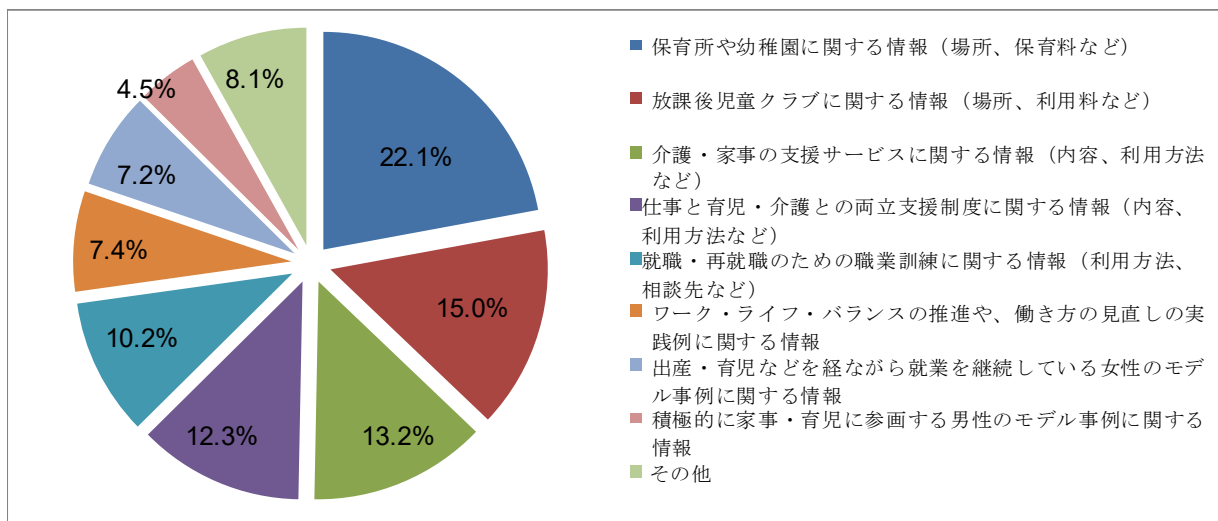
問 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、受け入れられるものはどれですか。

男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、受け入れられるものはどれか調査したところ、「育児・介護のための休暇を取得する」と回答した人が27.5%、「リフレッシュのための休暇を取得する」と回答した人が25.1%と高く、以下、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」(16.3%)「仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらおう」(11.5%)「主夫として、家事・育児・介護を行う」(5.6%)「仕事と育児・介護を両立するため、賃金が下がっても転職する」(4%)「育児・介護のためにいったん離職する」(3%)などの順となっている。



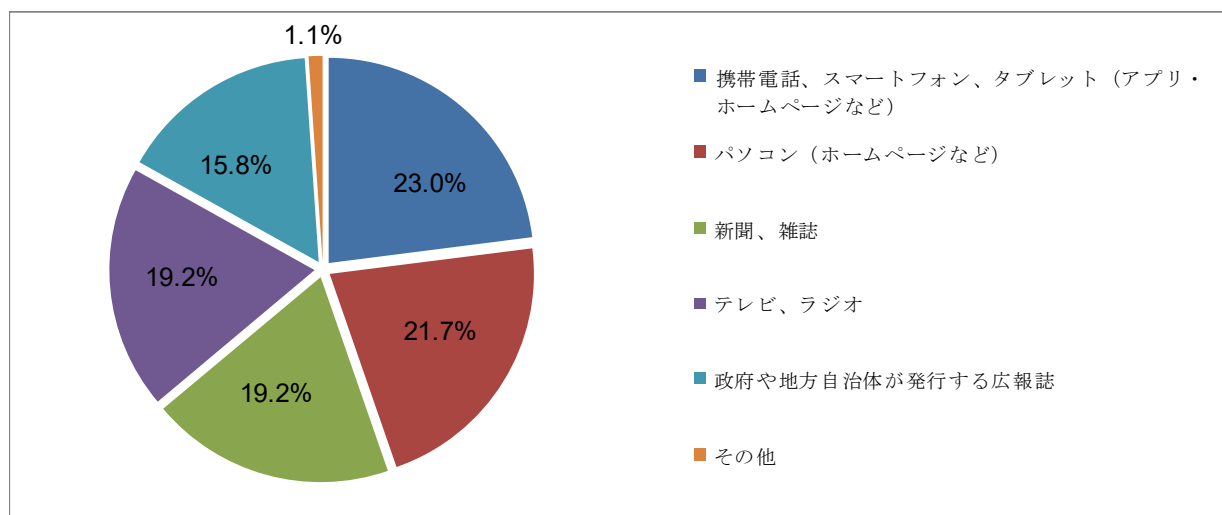
問 女性活躍推進の取組に関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。

女性の活躍推進の取組に関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じるか調査したところ、「保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）」と答えた人の割合が22.1%と最も高く、以下、「放課後児童クラブに関する情報（場所、利用料など）」(15%)「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）」(13.2%)「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」(12.3%)「就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）」(10.2%)「ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報」(7.4%)「出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報」(7.2%)「積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報」(4.5%)などの順となっている。



問 情報を入手する際、どの媒体を特に利用したいと思いますか。

情報を入手する際、どの媒体を特に利用したいと思うか調査したところ、「携帯電話、スマートフォン、タブレット（アプリ・ホームページなど）」と回答した人の割合が23%、「パソコン（ホームページなど）」と回答した人の割合が21.7%と高く、以下、「新聞、雑誌」（19.2%）「テレビ、ラジオ」（19.2%）「政府や地方自治体が発行する広報誌」（15.8%）などの順となっている。



5 各設問の自由記述意見

- 自治体、企業の理解はもちろんだが、企業における現場レベルでの理解がもっとも重要。
- 経済第一という価値基準に一石を投じる取り組みになろうかと思えます。今後の発展を期待します。
- いつからか日本は男性優位の考え方にかたよりすぎてしまってきたので時代と共に移りかわってきた世論や考え方、働き方、ライフプラン等、大人が、上に立っている人間がかわっていくべきである。このアンケートすら男性が作成したであろうなという文章が多々見うけられる。行政にたずさわる人間がこれでは何も変わらない。
- 福祉に関する施設が充実されない限り思っているような方向には進みづらいと思う。
- 会社側から保育園など、完全に充実していなければ復帰するのは無理ではないか。実際、出産してしまうと本人の意識が家庭となってしまう、仕事は、収入のためとなり、仕事をがんばろうという感覚がなくなる。人によっては小さい子供がいるから当然だろうという主張をしてくる。もちろん全員ではない。企業はどこも人手不足で、残っているものは常に負担があるのに、そういう人がいると気分がよくない。もちろん、自分がその立場であったら、そうなるかもしれない。子供は社会の宝であり大切にしたい。でも企業側からみると、それを充分に受け入れるには相当に余裕のある会社でないと実行できないように思える。また、女性自身、仕事に対する心構えをかえなければ、いくら政治が何とかしようとしても難しいのではないか。
- 今この政策が必要かつ重要とは全く思わない。ニセコ町のようにもっと他に優先して取り組むべきことが多々あると思えます。
- 男女平等参画社会及び女性活躍推進法等がなくても普通に平等である社会がくるのを望みます。
- 労働生産性の向上を第一として、勤務時間内に仕事を終わらせること、残業しないことが最善だという意識改革が第一歩だと思う。
- 女性が働きやすい環境を早急に作ってもらいたい。
- 昔の風潮を引きずらないようにしてこれからの子供たちには仕事面においても男女平等、就職や昇進などで男女の比較が五分五分であることが当たり前と思える社会になってほしいと思えます。
- 社会に出てからは自己責任。義務教育を受けている以上の平等は無いと思う。
- 男女平等という問言を使う法律等がある限り絶対に男女平等にならないと思う。
- 女性が優先されすぎていて、男性が仕事をしづらくなっている職場もあると思う。
- 女性が働く事には賛成だが、平等ではないと感じる事がある。女性だから出世が遅いとか上司に気に入られた女性だけ出世するとか同じ職場で同じ仕事をしているのに、女性だから仕事量を減らし、男性がそれを補うとか。男性だから優遇されている事もあれば、その逆もあるように感じる。ある意味平等なのかもしれないが、個人的にはその職場にいる人達の性格によって変わるので、女性が女性がという、女性の地位を底上げしようという今の状況があまり良くないと思う。
- 出産や育児中、妊娠、寿退社をする女性に対してとても辛い会社状態のところもあります。マタハラ等そういうハラスメントが改善していかなければ女性の社会進出は難しいと思う。
- 50代後半なのでどうしても「昔ながら」も理解できるし、娘が一人おりますが、娘と話をする中で古くさくては、話もできないなと思いつつ今の親世代にとっての男女平等のあり方はとても難しいですね。そもそも平等になったら子供は幸せなのか？ってところです。

○女性が社会で働く事はとても良いが、それと同時に子育てや介護を仕事と両立したい、自分の役割を公共サービスのみに全てを委ねたくないという思いを持ち合わせている方も多いと思われます。短時間勤務制度など手のかかる一時に子育てや介護を優先できる制度の充実が必要と思われます。

○男女平等や女性活躍を望まない女性もいることを理解してほしい。

○女子の貧困が報じられているので、女性の正規労働ができる環境を目指すべきである。(一例として、離婚後に子供の養育費の約束が反故されるケースがあり、経済的に困窮し、子供が教育を受けられなくなるから。)

○出産、子育てへの社会的理解とそれを埋める法整備が必要。男子も強制的に育休をとらなければ罰せられるなど、家庭を大切にしないことはダメだということを社会が認識することが必要。

○男女平等という視点を超えて、人口減の中で対応していくための方策を考えていくべきで、そうすると自ずと女性の活躍を促さざるを得ないし、男女平等の当初の理念も実現できるのではないかと思う。

○人口減少が進む流れは止められないため女性も社会の構成員として働き続けることが必然となると考える。そのためには育児や介護の支援が今以上に社会で整備され、またお互い理解が進む必要があるのではないかと思う。

○家庭のことは外部委託してでも男性と同じだけ働くよう仕向ける内容になっているという印象を受けます(この調査が)。今、働いている人(男女関係なく)の長時間労働や負担を何とかしない限りはもっと活躍したいと思う人は増えないと思います。都合よくあれもこれもさせようとしなくてほしい。

○能力のある方、働く意欲の方、このような女性が働き続けられる社会の実現を推進していくべきだと思います。

○現時点では法律を良くしたとしても、周りの人々、職場や近隣の方々の意識や考え方を変えていかなければ意味のないものになると考えている。また、企業自体の制度、育児や産休も見直しが必要ではないかと考えている。

○制度が整備されなければ、個人の意識(考え方)は変化しないと思う。

○総活躍出来る日がきたら良いですね。

○男の方がどうしても力は強いから、すべてが平等になるのはムリと思う。俱知安に増えたマナーの悪い外人のほうはどうにかしてほしい。

○平等に生きていきましょう。

○これ(男女平等参画社会及び女性活躍推進法等)というよりは町、役場に対して。町として仕事をもっている人、親の実態を調査するべきだ。このアンケートをとる前に行い、子供の環境や介護の環境を整えなければこんな法など意味がない。家庭により考えも時間も違うし一概によい、悪いも言えない。平日勤務帯の仕事している人のことしか役場職員は考えてくれない。

○得手不得手があると思う。女性が今以上に活躍を推進されなければいけないのか必要性がよくわからない。

○現実的に両親などの協力がないと、夫だけではなりたちません。

○平等なんて人間できないんです。平等じゃなくていいんです。のびのびと仕事ができ、育児ができれば。こんなことして、結果みて、どうするんですか?こんなことしている時間があるなら、もっと他にやることあるだろう。

○アンケートを見て、今年、自分たちはアンケートを用いてこういう調査をしました。という結果を

残すだけのためのアンケートでしかない。看護師として働いて男女差を感じない。答えるのが困難でした。

○むずかしい言葉でなかなか理解しづらいが、男だから〇〇とか、女だから〇〇とかというような考え方がかえられて人間として生きていける社会になればいい。

○職場は女性が多い職場なので、それほど女性が活躍できていないとは思えません。たしかに女性が結婚し子供を育てながら社会で働いていくには夫婦の協力や社会的なサポート態勢は必要であると思います。一方で女性の中には家庭を守ることに重きを置いている人もいると思うので、家に居ながらできる仕事や、子供を育てながらでも参加できる文化的なサークル活動の推進を計っていく事も一つの方法だと考えます。

○女性社会で働いているので普通のことと思う。

○女性でも男性でも育児休暇をとっても罪悪感がわからない程度の人員を職場は確保するべき。男性が育児休暇、短時間勤務を取ることを珍しいと思わないくらいの意識を多くの人がもてるよう働きかけることが必要だと思います。

○男性社会が作った法律、慣例を重んずる企業の考え方が変えられないと女性なんて活躍したくても出来ないし男性も家庭なんて入れない。

○平等でかつお互いを尊重しつつ、役割分担の話し合い合意の上で各家庭それぞれの形があればいいと思います。

○性別マイノリティも一部対象になると思われる。平等という言葉や女性活躍の言葉に画一性を感じます。ひとりひとりがオンリーワンという広いコンセプトを倶知安は打ち出したらどうでしょう。

○すべて平等にならないと思います。限界を知ったうえで対策を。平等であっても同質ではない。

○とにかく若者の給料を上げなければ子供を産むことも家庭をもつことも厳しいので、まず手当てをしっかりとしてほしい。女もお金がないと行動できないと思います。

○こんなの作っておいても女性が働きやすいようにすることにつながっていない。保育料等の考慮も考えてないし。

○保育所など設けてほしい。

○女性の地位が低いのは残念。能力があっても男性より劣る扱いをされたり女性の地位向上は世界からみても劣る。

○能力ある女性はたくさんいます。活かさない社会は遅れています。倶知安町から立ち上がって下さい。

○保育所の拡充。保育時間の延長。男性の意識改革。

○働きたい人は働いて、家事をしたい人は家事をして、個人の考えで動いてもらえるようそれぞれに応じた支援があれば良いと思う。

○女性の活躍が増えるのは喜ばしいこと。

○わからないことだらけでむずかしいです。

○必要とする人がいるのですが、全ての人が必要としているものではないと思う。男、女それぞれにしか絶対にできないという事もある。

○言うは易く、行うは難しだと思う。

○男女平等参画社会の重要性は認識していますが、現在高齢者として各質問に的確に解答できないことが多く、すみません。

○男女平等参画社会及び女性活躍推進法は知りませんでした。本当に男女平等になる事がありえるのでしょうか？私は女性も活躍する場があつていいと思います、子供は少なくとも3歳まで自分の手で育てていただきたいと思います。子供が大きくなって親は意見を言えなくなるような気がしますが？

○男女平等参画。わが国は遅れている。特に職場は男性優遇。中小企業、男女差別、はなはだしい。

○調査については良いことだと実感しています。80歳台になると過去の月日を考えても男女平等問題はあり、自分ながら仕事に専念した月日を思い返しています。良い機会考えさせられありがとうございました。

○男女平等参画社会といっても男性はあまり関心もなく、又、情報も不足のため、わからずあまりこの取り組みは進まないと思う。だんだん良くなっていくことを希望します。

○上記の言葉（男女平等参画社会）がなくなり自然体の中で男女関係なく仕事に家庭に生き生きと生活できる社会であってほしいですね。

○女性の管理職が増えたと言ってもまだまだ男女平等ではなく女性が働きやすい職場に変わっている感じがしない。男性も女性もその人の良さを引き出せる環境を作りあげてほしい。

○私たちの(70代)親世代から見ると、男女共同は進んでいると思う。若い男の人も子育てに参加しているのが見受けられる。

○日本の男女平等参画を実現することは、本当の意味でまだまだ努力と政策決定を行わなければならないと思います。頑張りましょう。

○女性の社会参加には大賛成です。

○良いことだと思う。広がってほしいです。

○女性の能力が発揮できるようになるよう願っています。

○雇用側も働きやすい環境を今以上に良くする努力が必要です。思いやる心、助ける優しさが欠けている人が多い世の中に思えます。推進プランを策定しても良い町づくりになるのでしょうか？

○現時点では女性の参画割合が低い女性優遇で進めているように感じるが、今後についてはある程度のところ男性女性と分けずに一人一人の個性、能力を優遇するという視点にすべきだと思う。こうしないとこれまでの反対の差別現象がおこるほか、ジェンダーレスタイプの人達に対応できなくなる。

○本当の意味での平等を実現するのは不可能。互いに思いやる気持ちをもつことが重要。

○人事において男女平等の結果、女性優遇、男性優遇となっている。という批判を避ける上でも人事の意思決定プロセスを予め明らかにし必要に応じて情報公開（成績や意思決定の根拠など）を行うべき。

○女性を尊重する意味でも日本の労働力を確保する意味でも推進していくべきものだと思う。

○質問が多すぎてこのアンケート調査は実態把握が難しいと思う。

○男性らしさ女性らしさを活かすという昔の考え方、固定化した思考をこえることが大切。個人、一人一人の能力を活かし尊重することが大切。

○ひどい内容のアンケートだった(設問の設定等)。こんなわかりにくいアンケートをやること自体、俱知安町役場の意識が問われるのでは！内容を十分に整理し多くの町民が記入しやすいアンケートにするよう工夫すべき。

○男女平等にすべき。男女平等でも問題無い分野と男女住分けるべき分野があると思います。何でも

平等というのは現実的に難しいと思います。

○平等と掲げているが最近では女性の立場が優位に見えます。片方の立場が悪くなる取組みはしないほうがよい。

○個人の考えはいろいろあるが職場の体制として男女平等参画の意識を強くうちだす必要がある。(中小企業で結婚出産を機に退職を迫るのは、現状まだまだ多い。行政としてどうするかが問題)

○ゴミの分別がもっと簡単になれば家事の負担も軽減すると思います。

○子育てに関してどうしても母親が担わなければならない事も出てくると思う。そういった負担をどうやって周囲がフォローできるか、夫だけでなく地域の中で出来ることもあるのではないかと思います。

○男女はそもそも脳や身体に違いがあり平等とするかは難しい。悪平等にならないことが大切。女性の活躍を高らかに叫んでも女性にとっては余計なお世話な面もあるのではないかと。

○早くから叫ばれているが未だに進んでいないことの要因を分析する必要がある。

○性別を理由とした区別は行われるべきではなく、個人の能力に応じた方法で社会に関わるのが大切と思っています。家庭においても、夫・妻はその個人の適性に応じた役割を担うべきだと思いますので、家事や育児、介護といった事情についても適材適所で行うべきだと思います。

○男女平等、女性の社会進出をうたうのであれば保育園等、子供を安心して預けられる施設をもっと充実させるべき。

○急変した社会の方針で逆に男性のほうが職場で不平等な目にあっている現状となっていて、それはそれで平等とはいえない社会になっている、人事面等でも女性ありきではなく能力や人としてどうか等も踏まえ、上に立つ人を選んでほしい。女性がリーダーとなることは何も不満はありません。

○男女共に働き方改革が必要。長時間労働をなくすために職場全体の平等化が必要である。

○様々な例を見てきましたが、働く世代の男女の当事者だけではなく、彼らを取り巻く人々(特に上の世代)の意識改革・啓発も重要だと痛感しており、そのような取組もあると思います。

○健常者はともかくも、何らかの障害を持つ人は手厚く考えられているのでしょうか？